

インフルエンザ警報！！／リンゴ病が流行か

12月に入って急に寒くなり、インフルエンザが異例のペースで急増しており、各地で警報が発令されました。大阪でも12月22日までの1週間で定点あたり45.75人(前週21.64人)となり、警報レベル30を大きく超えています。入院患者数も増加しており、医療機関が休診となる年末年始を迎えて危機的状況です。検出されているのはほとんどがA(H1N1)pdm09で、感染力が強いと言われています。

新型コロナウイルスも増加に転じており、今年も冬の流行が心配されます。オミクロン株の新たな変異株「XEC」が世界的に広がりつつあり、過去の感染で得られた免疫からの逃げる能力も高いとの分析結果も出ており、注意が必要です。12月15日までの1週間で定点あたりの患者数は全国で3.89人(前週3.07人)で徐々に増加しています。大阪府では1.78人(同1.36人)と全国より少ない状況です。10月1日より65歳以上の高齢者や60歳以上の一部の重度障がい者を対象に、新型コロナワクチンの定期接種が開始されており、大阪市では3千円の自己負担(市民税非課税世帯等は無料)で接種をすることができます。

過去10年で最大の流行となっているマイコプラズマ肺炎は、12月15日までの1週間で大阪は1.89人とやや減少しましたが例年より多い状況が続いています。大流行していた手足口病は大阪で0.80人と減少しました。

薬不足は依然深刻な状況が続いています。特に小児科では咳止めが不足しており、インフルエンザや新型コロナの流行でさらなる悪化が懸念されます。基本となる手洗い、マスク等を徹底するとともに、人込みをなるべく避けて「かからない」、「うつさない」ようにしてください。

リンゴ病(伝染性紅斑)が流行か？～大人にも感染し様々な症状～

伝染性紅斑は両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ(ほっぺ)病」よばれ、小児を中心に流行する発疹性疾患ですが、大人も感染・発病することがあります。病原体は、ヒトパルボウイルスB19で、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」や、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」があります。全国的には、2001年、2007年、2011年及び2015年に流行しています。今年の9月ごろから首都圏を中心に患者が増え始め、関東や東北地方などに広がってきています。比較的ゆっくりと流行が広がっていくので、これから先1年ぐらいは、患者発生数が増加していく傾向が続くとの予測もされています

潜伏期間は10～20日で多くは最初に頬に赤い発しんが現れますが、その前に微熱やかぜのような症状(前駆症状)が見られることもあります。続いて手・足に網目状(レース状・環状)などと表現される発しんがみられ、胸・腹・背中にも現れることがあります。これらの発しんは1週間前後で消失しますが、長引いたり再出現することもあります。成人の場合は関節痛・頭痛などを訴え、関節炎症状により1～2日歩行困難になることがあります。ほとんど合併症を起こすことなく自然に回復します。

ウイルス排泄量が最も多いのは前駆症状の時期で、頬が赤くなる頃には、ウイルスの排泄がほとんど終わるため、知らないうちに他の人にもうつしている可能性があります。妊婦がかかると風疹のような先天異常はありませんが流産となる危険があります

